

7月、県立三沢高校2年生17人が、私が籍を置く会社の大型太陽光発電所などを見学した。「総合的な学習の時間」の科学技術(研究・開発)

# 私見創見 Saturday

班の皆さんで、三沢市の科学技術に関する現状と課題を知り、糸口を探りたいという趣旨である。

当社は、「青森県教育支援プラットフォーム」に登録している。これは、「地域ぐるみで子どもを育む社会」の実現を目指す、地域住民・企業・NPO・各種団体等(以下「企業等」)の協力を得ながら、学校・家庭・地域において充実した教育活動が展開されるよう支援する仕組みである。当社が現在三沢市内で建設を進めている2番目の大型太陽光発電所は、環境省の「地域低炭素化出資事業」の基金設置法人である一般社団法人グリーンファイナンス機構から県内で初めて認定・出資をいただいたもので、このプロジェクトの特徴は、条件の一つに環境学習・教育の場として施設見学を受け入れを行うほか、地域貢献することにある。

## 科学技術の課題解決

# 地元高校生の将来に期待

三沢高生徒の施設見学受け入れは、正しくこれらの趣旨にのっとり、三沢市と連携して取り組んだものである。今回は、私が受け入れ企業



しもや・えいじ 1951年、北海道生まれ。エネルギープロダクト取締役、みさわおもちゃ病院長。室蘭工業大学院卒。

下谷 栄治

NORD58顧問  
事務所代表

任、責任者として応接したと

いうよりは、専門職の「太陽光発電アドバイザー」として、また一技術者として、向学心に燃える高校生と一緒に、「エネルギー」をキーワードに勉強した。

半導体でできた太陽電池で電気エネルギーに変換して利用している。また、集熱器で赤外線を変換した熱エネルギーも太陽熱温水器と言うものを通して利用している。

石が地球の中に取り込まれる際の衝撃や圧縮による熱、過剰の重金属が地核に沈降していくときに放出される摩擦熱、および地磁気が作る電磁効果で生じるジュール熱である。

自然エネルギーを学び議論する場合、今の日本では、太陽光発電、風力発電、地熱発電等に目が向きがちであるが、今日人類に問われているのは、「発電」という矮小化されたものではなく、エネルギーとそれを生み出す資源という根本的なものであると考える。あえて言えば、人類が享受しているエネルギーの根源は、宇宙にあり、とりわけ核融合で存在している「太陽」にあることを厳粛に受け止めるべきではない。

太陽からは光という波のエネルギーを受け取り、それを

次代を担う高校生には、物事を根源で捉え、多面的に検証し、かつその成果を大局的に見地から社会に還元する人生を歩んでいってほしい。その道理と矜持をこの機会に一人でも感じ取ってもらえれば幸との思いである。理系進学を目指す彼らが、主題とする三沢市の科学技術に関する現状をどれだけ理解し、そこにどんな課題を見いだしたのか、そしてその課題解決の糸口を探り当てたのかどうかは、いずれ教えてもらえるであろう。